

第70回愛媛県中学校総合体育大会要項



愛媛県教育委員会
愛媛県中学校体育連盟

第70回愛媛県中学校総合体育大会要項

- 1 主 催 愛媛県教育委員会・愛媛県中学校体育連盟
- 2 後 援 松山市教育委員会・(公財)愛媛県スポーツ協会
- 3 期 日 平成30年7月21日(土)～27日(金)
- 4 会 場 愛媛県総合運動公園・松山中央公園 等 15会場
- 5 競 技 陸上競技・水泳競技・バスケットボール・サッカー・
ハンドボール・軟式野球・体操競技・新体操・バレーボール・
ソフトテニス・卓球・バドミントン・ソフトボール・柔道・
剣道・相撲・ラグビーフットボール・テニス
- 6 競 技 規 程 別記のとおり
- 7 参 加 資 格 本連盟に加入の中学生であって、地区予選を経て出場権を得た者。
- 8 申 込 ・ 抽 選 平成30年6月26日(火)に郡市理事がまとめて抽選会場に持参し、
郡市理事、専門部長による責任抽選とする。
- 9 表 彰
 - (1) 団体競技は、次のとおり表彰する。
 - ① 優勝チーム 賞状、優勝旗を授与する。さらに、登録選手には、賞状及びメダルを授与する。
 - ② 準優勝チーム 賞状、準優勝杯を授与する。
 - ③ 第3位チーム 賞状を授与する。
 - (2) 個人種目は、次のとおり表彰する。
 - ① 第1位の選手 賞状及びメダルを授与する。
 - ② 第2位の選手 賞状を授与する。
 - ③ 第3位の選手 賞状を授与する。
 - (3) 陸上競技及び水泳競技の新記録樹立者には、新記録賞を授与する。

競 技 規 程

- 1 競技は、本年度の各競技の規則に準じて行う。
- 2 参加生徒の引率・監督は、出場校の校長・教員・**部活動指導員**であること。コーチは、出場校の教職員とする。また、愛媛県中学校総合体育大会では、「剣道」以外の競技において、外部指導者（コーチ）をおくことができる。また、「体操競技」は、選手の安全確保を目的として、当該校以外の中学校に勤務する教職員を「テクニカル・アドバイザー」として登録できる。外部指導者（コーチ）及びテクニカル・アドバイザーは、出場校の校長が認めた者とする。
 出場校の監督、コーチ、外部指導者（コーチ）、テクニカル・アドバイザーは、「監督証、コーチ証、外部指導者（コーチ）証、テクニカル・アドバイザー証の所持義務一覧」に則って、「監督証」、「コーチ証」、「外部指導者（コーチ）証」、「テクニカル・アドバイザー証」を所持すること。当該証を所持しない場合は、ベンチ入りできない。
- 3 監督、コーチ、外部指導者（コーチ）、テクニカル・アドバイザー、マネージャーは、当該競技にふさわしい服装で大会に臨むこと。
- 4 出場は、一人一競技とする。
- 5 申込書提出後の変更については、「変更届について」の規程に則って、「変更届」を提出すること。
- 6 荒天時は、「荒天時の対応に関する申し合わせ事項」に則って対応する。
- 7 「愛媛県中学校総合・新人体育大会に関わる合同チーム編成規程」に基づき、各地区中学校体育連盟会長が認めた合同チームは、参加できるものとする。
- 8 個人情報の取扱い（利用目的）については、次のとおりとする。
 大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、取得する個人情報について適正に取り扱う。
 取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成・ホームページ・掲示板・報道発表・記録発表（記録集）等、その他競技運営及び競技に必要な連絡等に利用する。大会に参加する各選手は、これに同意する。
- 9 参加料は、参加選手一人につき 600 円とする。（マネージャーは除く。）
 なお、参加料振込後は、出場辞退に伴う参加料の返金はしない。
- 10 四国大会出場者は、次のとおりとする。

県	競 技 名	参 加 チ ー ム
愛媛	ハンドボール	各県男女 2 チーム 選手 15 名
	軟式野球	各県 2 チーム 選手 18 名
	バレーボール	各県男女 2 チーム 選手 12 名
	ソフトテニス	各県男女 2 チーム 選手 8 名 個人：8 組
	柔道	各県男女 2 チーム 男子：7 名 女子：4 名 個人 男子：8 階級×4 名、女子：8 階級×4 名
香川	陸上競技	各種目各県から 4 名 リレー種目：各県 2 チーム
	体操競技	各県男女 1 チーム 選手 6 名 個人：4 名
	新体操	各県男女 2 チーム 選手 8 名 個人：3 名(女子のみ)
	バドミントン	各県男女 2 チーム 選手 7 名 個人：単 3 複 3 (9 名)
徳島	バスケットボール	各県男女 2 チーム 選手 15 名
	卓球	各県男女 3 チーム 選手 8 名 個人：10 名
	相撲	各県 3 チーム 選手 5 名 個人：8 名
高知	水泳競技	各種目各県から 2 名 リレー種目：各県 2 チーム
	サッカー	各県 2 チーム 選手 18 名
	ソフトボール	各県男女 2 チーム 選手 18 名
	剣道	各県男女 2 チーム 選手 7 名 個人：8 名
	テニス	各県男女 2 チーム 1 チームは、7 名以上 10 名以内

第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別出場数規準

- 1 出場チーム数は、原則として地区大会出場チーム数が8チーム以上→2、15チーム以上→3、22チーム以上→4とする。但し、地区大会出場チーム数が少ない競技については、以下のとおりとする。

競技名	出場チーム数
バレーボール 男	4チーム以上→2、8チーム以上→3、12チーム以上→4
ソフトボール 女	5チーム以上→2、10チーム以上→3、15チーム以上→4
剣道 男女	
柔道 男女	各地区2チーム、さらに5チーム以上→3、9チーム以上→4
バドミントン 男女	各地区2チーム（松山市と新居浜市→4チーム）
相撲 男	各地区2チーム（松山市と宇和島・北宇和→4チーム）
ハンドボール 男女	県内8チーム以内→全チーム
体操競技 男女	
新体操 女	
ソフトボール 男	
ラグビー 男	
テニス 男女	

- 2 個人出場数は、以下のとおりとする。

競技名	個人出場数
陸上競技	各種目1位の選手（チーム）及び県内標準記録突破3選手（チーム）以内。
	* 新居浜市、西条市、大洲・喜多、八幡浜・西宇和、宇和島・北宇和 → 各種目2位以内の選手（チーム）及び県内標準記録突破上位5選手（チーム）以内。
	* 今治・越智 → 各種目3位以内の選手（チーム）及び県内標準記録突破上位6選手（チーム）以内。
	* 松山市 → 各種目3位以内の選手（チーム）及び県内標準記録突破上位8選手（チーム）以内。
水泳競技	各種目1位の選手（チーム）及び県内標準記録突破選手（チーム） 但し、800mと1,500mは、標準記録を突破していないと出場できない。
	* 今治・越智 → 各種目2位以内の選手（チーム）及び県内標準記録突破選手（チーム）
	* 松山市 → 各種目3位以内の選手（チーム）及び県内標準記録突破選手（チーム）
体操競技	各地区上位6選手（松山市と宇和島・北宇和→上位12選手）
新体操	各地区上位4選手（松山市→上位8選手）
ソフトテニス	団体1 → 個人4 団体2 → 個人8 団体3 → 個人12 団体4以上 → 個人16
卓球	団体1 → S4・D2 団体2 → S8・D4 団体3 → S12・D6 団体4以上 → S16・D8
バドミントン	シングルス4・ダブルス4（松山市と新居浜市→S8・D8）
柔道	団体1 → 個人3 団体2 → 個人3 団体3 → 個人4 団体4 → 個人4（団体数+1／最大4）
剣道	団体1 → 個人4 団体2 → 個人8 団体3 → 個人12 団体4 → 個人16
相撲	団体1 → 上位4選手 団体2以上 → 上位8選手
テニス	シングルス → 各郡市16名以内 ダブルス → 各郡市8ペア以内

陸 上 競 技 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 個人種目は1種目につき1校から3名以内、リレーは1校1チームとする。また、同一人は、2種目以内（リレーをのぞく）とする。

2 競 技 種 目

(1) 男子（18種目）

ア 学年別種目	1年100m	2年100m	3年100m			
	1年1500m	2年1500m	3年1500m			
イ 共通種目	200m	400m	800m	3000m	110mH	
	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	4×100mR
	四種競技（①110mH ②砲丸投 ③走高跳 ④400m）					

(2) 女子（14種目）

ア 学年別種目	1年100m	2年100m	3年100m			
	1年1500m	2年1500m	3年1500m			
イ 共通種目	200m	800m	100mH			
	走高跳	走幅跳	砲丸投	4×100mR		
	四種競技 (①100mH ②走高跳 ③砲丸投 ④200m)					
ウ オープン種目	棒高跳					

3 競 技 方 法

- (1) 学校対抗および種目別選手権とする。
- (2) 学校対抗における各種目の得点は、1位8点・2位7点・3位6点・4位5点・5位4点・6位3点・7位2点・8位1点とする。
- (3) オープン種目の女子棒高跳における順位は付けない。また学校対抗の得点にも関与しない。

4 競 技 規 定

- (1) 本大会は、2018年度（公財）日本陸上競技連盟規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。
- (2) スタートの合図は英語とする。不正スタートについては、1回目から失格とする。
ただし四種競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者はすべて失格とする。
- (3) トラック競技の予選はタイムレースとし、上位8名が決勝に進出することができる。
ただし、男女1500m、男子3000mについては、予選タイムの上位16名が決勝に進出することができる。なお、同記録の場合は、日本陸連の規則に準じて決勝進出者を決定する。
- (4) ハードル競技は次の規格で行う。

男子110mH……………台数10台	高さ91.4cm		
スタート～第1ハードル13.72m		ハードル間9.14m	
女子100mH……………台数10台	高さ76.24cm		
スタート～第1ハードル13.00m		ハードル間8.00m	

- (5) 四種競技は、大会２日目に上記の①・②、大会３日目に③・④を実施する。得点表は、男子十種競技・女子七種競技のものを使用する。
- (6) 砲丸投の砲丸は、男子５．０kg、女子２．７２１kgを使用する。
※ 四種競技においては、男子４．０kg、女子２．７２１kgを使用する。
- (7) 三段跳における踏切板から砂場までの距離は１０mとする。
- (8) 全天候競技場であるため、スパイクの長さは９mm以下とする。ただし、走高跳は１２mm以下とする。また、スパイクピンの本数は１１本以内とする。
- (9) 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のポールを招集場で検査を受け、合格したものに限り使用が認められる。
- (10) **女子棒高跳におけるオープン参加を認める。ただし、これにエントリーできるのはリレー競技を除く正式種目に出場していないか、１種目にだけ出場している者のみとし、正式種目２種目に出場している者のエントリーは認められない。**
- (11) 高さを競う競技のバーの高さは、次の通りとする。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
走高跳	男	145	150	155	160	165	170	173	176	179	以後３cmごと
	女	125	130	135	140	145	148	151	154	157	以後３cmごと
四種 走高跳	男	137	140	143	146	149	152	155	158	161	以後３cmごと
	女	117	120	123	126	129	132	135	138	141	以後３cmごと
棒高跳	男	240	250	260	270	280	290	300	310	320	以後10cmごと
	女	190	200	210	220	230	240	250	260	270	以後10cmごと

５ そ の 他

- (1) 各地区に割り当てられた番号（男子：黒字、女子：赤字）を書いたナンバーカードを背と胸に糸または安全ピンでとり付けなければならない。ただし、跳躍競技の出場者は、胸または背のいずれかにつけるだけでよい。
- (2) 四国大会に出場できる選手は、各種目上位入賞者４名とする。ただし、リレーは上位入賞２チームとする。
- (3) 全国大会には、別記全日中参加標準記録に到達した選手と、これが１０名に満たない場合は、推薦選手が出場できる。ただし標準記録到達選手と推薦選手の合計人数は１０名以内とする。なお推薦選手選考基準は別に定める。

県 総 体 ナ ン バ ー カ ー ド 一 覧 表

東 予		中 予		南 予	
地 区	番 号	地 区	番 号	地 区	番 号
1 四 国 中 央	1～80	5 松 山	481～700	8 大 洲・喜 多	881～1040
2 新 居 浜	81～160	6 東 温・上 浮 穴	701～800	9 八 幡 浜・西 字 和	1041～1200
3 西 条	161～320	7 伊 予	801～880	10 西 予	1201～1280
4 今 治・越 智	321～480			11 宇 和 島・北 字 和	1281～1440
				12 南 宇 和	1441～1520

第70回 愛媛県中学校総合体育大会陸上競技 参加標準記録

男 子			女 子		
種 目	学 年	標 準 記 録	種 目	学 年	標 準 記 録
1 0 0 m	1 年	13"54(13"3)	1 0 0 m	1 年	14"94(14"7)
	2 年	13"04(12"8)		2 年	14"64(14"4)
	3 年	12"84(12"6)		3 年	14"34(14"1)
2 0 0 m	共 通	☆25"94(25"7) (○26"2)	2 0 0 m	共 通	☆30"24(30"0) (○30"5)
4 0 0 m	共 通	☆59"14(59"0) (○60"0)	8 0 0 m	共 通	☆2'40"0 ○2'45"0
8 0 0 m	共 通	☆2'18"5 ○2'20"0	1 5 0 0 m	1 年	☆6'00"0 ○6'05"0
1 5 0 0 m	1 年	☆5'15"0 ○5'20"0		2 年	☆5'50"0 ○5'55"0
	2 年	☆5'00"0 ○5'05"0		3 年	☆5'45"0 ○5'50"0
	3 年	☆4'50"0 ○4'55"0	1 0 0 m H	共 通	19"64(19"4)
3 0 0 0 m	共 通	☆10'35"0 ○10'40"0	4×100mR	共 通	☆55"14(55"0) (○56"0)
1 1 0 m H	共 通	19"74(19"5)	走 高 跳	共 通	1m30
4×100mR	共 通	☆49"64(49"5) ○50"5	走 幅 跳	共 通	4m20
走 高 跳	共 通	1m55	砲 丸 投	共 通	8m50
棒 高 跳	共 通	2m50	四 種 競 技	共 通	1500点
走 幅 跳	共 通	5m10	☆：全天候舗装トラック () 内は手動計時 ○：アンツーカー(土)トラック ※ 中距離種目は電気計時・手動計時 とともに同記録とする。		
三 段 跳	共 通	10m50			
砲 丸 投	共 通	8m70			
四 種 競 技	共 通	1600点			

第45回 全日本中学校陸上競技選手権大会 参加標準記録

※1 追い風参考記録は対象としない。

※2 四種競技は、平均風速が2.0mを超えた記録は対象としない。

※3 電気時計とする。(手動計時は認めない。)

男 子 (13種目)		女 子 (10種目)	
種 目	写 真 判 定	種 目	写 真 判 定
1 0 0 m	1 1 " 2 0	1 0 0 m	1 2 " 5 3
2 0 0 m	2 2 " 7 5	2 0 0 m	2 5 " 8 0
4 0 0 m	5 1 " 6 0	8 0 0 m	2 ' 1 6 " 5 0
8 0 0 m	2 ' 0 0 " 5 0	1 5 0 0 m	4 ' 3 8 " 0 0
1 5 0 0 m	4 ' 0 8 " 5 0	1 0 0 m H	1 4 " 8 0
3 0 0 0 m	8 ' 5 7 " 0 0	走 高 跳	1 m 6 0
1 1 0 m H	1 5 " 0 0	走 幅 跳	5 m 4 5
走 高 跳	1 m 8 5	砲 丸 投	1 2 m 5 0
棒 高 跳	4 m 0 0	四 種 競 技	2 6 3 0 点
走 幅 跳	6 m 5 5	4×100mR	各都道府県1チーム (学校単独チーム)
砲 丸 投	1 3 m 0 0		
四 種 競 技	2 5 0 0 点		
4×100mR	各都道府県1チーム (学校単独チーム)		

※ 追い風参考記録は対象としない

【男女リレー種目の全日中大会への愛媛県代表選考について】

- (1) 全日本中学校通信陸上愛媛県大会(以下通信陸上)と愛媛県中学校総合体育大会(以下県総体)との2大会とも優勝したチームを県代表とする。
- (2) 通信陸上と県総体の2大会で優勝チームが異なる場合は、それぞれの大会での決勝レースの記録の良いチーム(1/1000判定を含む)を県代表とする。
- (3) (2)のケースでも同タイムの場合は、予選レースでの記録を比較し記録の良いチーム(1/1000判定を含む)を県代表とする。
- (4) (3)のケースでも同タイムの場合は、県総体閉会式終了後、代表決定レースを行いこのレースに勝ったチームを県代表とする。

水 泳 競 技 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各学校1種目3名以内、メドレーリレー・リレーは各学校1チーム。（6名まで登録可）
（個人1人2種目以内、ただしリレー種目は兼ねてよい）

2 競 技 方 法

- (1) 学校対抗および種目別選手権
- (2) 種 目

種目 \ 性別	男 子					女 子				
自 由 形	50	100	200	400	1500	50	100	200	400	800
平 泳 ぎ		100	200				100	200		
バ タ フ ラ イ		100	200				100	200		
背 泳 ぎ		100	200				100	200		
個 人 メ ド レ ー			200	400				200	400	
メドレーリレー	4 × 100					4 × 100				
リ レ ー	4 × 100					4 × 100				

3 競 技 規 定

- (1) 2018年（公財）日本水泳連盟競泳競技規則に準ずる。
- (2) 着用する水着に関しては下記の通りとする。
 - ① F I N A（国際水泳連盟）の公認した水着を着用する事。
 - ② 重ね着は、禁止する。着用できる水着は一枚のみとする。
 - ③ 水着あるいは身体へのテーピングは禁止する。
 - ④ 水着への二次加工は禁止する。
 - ⑤ 水着に記載する所属表示は30cm以内で1カ所とする。
 - ⑥ スイミングクラブで揃えていると明らかにわかる文字やマークがプリントされている水着は不可。（スイミングキャップも同様）
- (3) 予選は全てタイムレースとする。
- (4) スタートは1回とする、やり直しは実施せず、1回目の違反者を失格とする。
（遅延行為と判断された者も違反者の対象とする。）
- (5) 決勝は、予選の結果上位8名が出場できる。ただし、棄権者が出た場合は、次点上位より順次出場権を与える。また、男子1500m自由形・女子800m自由形は予選レースは行わず、決勝タイムレースによって順位を決定する。
- (6) 得点および優勝決定方法
 - ① 各種目ごとに1位8点、2位7点、3位6点、……8位1点とし、得点の多い学校を優勝とする。
（ただし、リレー種目は1位16点、2位14点、3位12点……8位2点とする。）

② 同点の場合は、次の順位により決定する。

ア リレー種目による得点の多い学校を上位とする。

イ 入賞者の多い学校を上位とする。（ただし、リレー種目は4人とする）

ウ 1位の数の多い学校を上位とする。

エ 2位の数の多い学校を上位とする。（以下8位までこれにならう）

(7) 各種目1位・2位の者は、四国大会への参加資格を得る。また、全国大会標準記録を突破した者が、全国大会への参加資格を得る。

(8) 選手の棄権やリレー種目メンバーの変更は、レース1時間前までに監督が申し出る。種目の入れ替えや、参加資格のない者との交替や変更、その他は認めない。

(9) 招集に遅れないように注意する。失格になる場合がある。

(10) プールサイドへの入場は、上履を原則とする。

(11) 開場前に会場に不法に入場した個人および団体は厳罰に処する場合がある。

【平成30年度 第70回 愛媛県中学校総合体育大会（水泳競技の部）標準記録】

長水路（50m）標準記録

種 目	男 子	女 子	
自 由 形	5 0 m	2 9 " 0	3 1 " 5
	1 0 0 m	1 ' 0 4 " 0	1 ' 1 0 " 0
	2 0 0 m	2 ' 2 4 " 0	2 ' 3 5 " 0
	4 0 0 m	5 ' 0 7 " 0	5 ' 3 5 " 0
	8 0 0 m		1 2 ' 3 3 " 0
	1 5 0 0 m		
背 泳 ぎ	1 0 0 m	1 ' 1 5 " 0	1 ' 1 9 " 0
	2 0 0 m	2 ' 4 5 " 0	2 ' 5 2 " 0
平 泳 ぎ	1 0 0 m	1 ' 2 0 " 0	1 ' 2 9 " 0
	2 0 0 m	2 ' 5 3 " 0	3 ' 1 2 " 0
バタフライ	1 0 0 m	1 ' 1 3 " 0	1 ' 2 1 " 0
	2 0 0 m	3 ' 0 7 " 0	3 ' 2 5 " 0
個人メドレー	2 0 0 m	2 ' 4 2 " 0	2 ' 5 6 " 0
	4 0 0 m	6 ' 0 8 " 0	6 ' 4 6 " 0
フリーリレー	4 × 1 0 0 m	4 ' 2 7 " 0	4 ' 5 3 " 0
メドレーリレー	4 × 1 0 0 m	4 ' 5 8 " 0	5 ' 2 9 " 0

(注) ① 1/100秒の記録は対象としない。(切り捨てて比較する)

② リレー・メドレーリレーにおける第一泳者の正式時間は、その対象としない。

短水路（25m）標準記録

種 目		男 子	女 子
自 由 形	50m	28" 5	31" 0
	100m	1' 03" 0	1' 09" 0
	200m	2' 22" 0	2' 33" 0
	400m	5' 03" 0	5' 31" 0
	800m		12' 25" 0
	1500m		
背 泳 ぎ	100m	1' 14" 0	1' 18" 0
	200m	2' 43" 0	2' 50" 0
平 泳 ぎ	100m	1' 19" 0	1' 28" 0
	200m	2' 51" 0	3' 10" 0
バタフライ	100m	1' 12" 0	1' 20" 0
	200m	3' 05" 0	3' 23" 0
個人メドレー	200m	2' 40" 0	2' 54" 0
	400m	6' 04" 0	6' 42" 0
フリーリレー	4×100m	4' 23" 0	4' 49" 0
メドレーリレー	4×100m	4' 54" 0	5' 25" 0

（注）① 1/100秒の記録は対象としない。（切り捨てて比較する）

② リレー・メドレーリレーにおける第一泳者の正式時間は、その対象としない。

【平成30年度 第58回 全国中学校水泳競技大会 標準記録】

種 目		男 子	女 子
自 由 形	5 0 m	2 5 " 0 9	2 7 " 2 8
	1 0 0 m	5 4 " 7 2	5 9 " 4 9
	2 0 0 m	1 ' 5 8 " 5 3	2 ' 0 8 " 0 1
	4 0 0 m	4 ' 1 1 " 3 8	4 ' 2 8 " 7 7
	8 0 0 m		9 ' 1 7 " 1 0
	1 5 0 0 m		
背 泳 ぎ	1 0 0 m	1 ' 0 1 " 3 1	1 ' 0 5 " 8 0
	2 0 0 m	2 ' 1 2 " 3 6	2 ' 2 1 " 1 4
平 泳 ぎ	1 0 0 m	1 ' 0 6 " 7 7	1 ' 1 3 " 4 5
	2 0 0 m	2 ' 2 3 " 8 9	2 ' 3 6 " 6 6
バタフライ	1 0 0 m	5 8 " 2 5	1 ' 0 3 " 8 1
	2 0 0 m	2 ' 0 9 " 3 7	2 ' 1 9 " 8 5
個人メドレー	2 0 0 m	2 ' 1 2 " 7 2	2 ' 2 3 " 3 1
	4 0 0 m	4 ' 4 3 " 0 7	5 ' 0 2 " 7 9
フリーリレー	4 × 1 0 0 m	3 ' 5 1 " 8 6	4 ' 1 0 " 7 9
メドレーリレー	4 × 1 0 0 m	4 ' 1 7 " 2 3	4 ' 3 7 " 9 2

(注) ① 県総体で予選・決勝を問わず標準記録を突破の者およびチーム（同タイムを含み、リレー・メドレーリレーは1チーム6名まで）は全国大会への出場権を獲得し、申し込むことができる。

② リレー・メドレーリレーにおける第一泳者の正式時間は、その対象としない。

バスケットボールの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム（選手15名以内・引率責任者・監督・コーチ・マネージャー各1名をもって、学校単位に構成する。）

2 競 技 方 法

- (1) トーナメント方式とする。

3 競 技 規 定

- (1) 2017～（公財）日本バスケットボール協会規則による。
- (2) 使用球は（公財）日本バスケットボール協会検定球、男子は7号・女子は6号皮革製とする。
- (3) ベンチは組合せ番号の小さい方がオフィシャル席に向かって右側とする。
- (4) ユニフォームの色は組合せ番号の小さい方が白色とする。
- (5) メンバー表はゲーム開始10分前までにオフィシャル席に提出する。
- (6) アンダーガーメントを着用する場合は、ユニフォームと同色とする。
- (7) ベンチに入る者は登録された選手15名と引率責任者・監督・コーチ・マネージャー各1名とする。引率責任者・監督は出場校の校長・教員（非常勤は除く）・部活動指導員とし、コーチは校長が認めた者とする。また、マネージャーは出場校の教員または生徒とする。ただし、教員以外の指導者の場合は、試合中に証明書を確認できるようにしておくこと。
- (8) コーチ・アシスタントコーチは、試合中チームベンチエリア内で両者同時に立ち続けることは認められない。
- (9) ゾーンディフェンスは禁止とする。

サ ッ カ ー の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム（1チームは、引率者1名・監督1名・コーチ1名（すべて監督が兼ねることができる）、選手18名の計21名以内とする。）

2 競 技 方 法

- (1) トーナメント方式とする。
- (2) 試合時間は60分（30分ハーフ）とする。勝敗が決しないときは10分間（5分ハーフ）延長し、なお決しないときはPK方式により次回戦に進出するチームを決定する。ただし、準決勝において勝敗が決しないときは、10分間（5分ハーフ）延長し、なお決しないときは再度、10分間（5分ハーフ）の延長をする。それでもなお決しないときにはPK方式により勝敗を決定する。
- (3) 天候によっては、飲水タイムもしくは、クーリングブレイクを設けることがある。ただし、その決定は大会競技委員会で行うものとする。

3 競 技 規 定

- (1) 2018年度（公財）日本サッカー協会の「サッカー競技規則」による。
- (2) 選手登録は18名とし、競技開始前に登録した最大7名の交代要員の中から7名までの交代が認められる。一度退いた競技者は再び出場することができない。ただし、交代の手続きは従来通りサッカー競技規則第3条に則って行う。
- (3) 試合球は公認球（5号）とし、競技規則第2条に適合するものとする。
- (4) 本大会において退場を命じられた選手は次の1試合に出場できず、違反行為の内容によっては大会の規律委員会（または競技委員会等で規律委員会に代わるもの）でそれ以後の処置について決定する。
- (5) 本大会期間中、警告を2回受けた選手は次の1試合に出場できない。

4 注 意 事 項

- (1) ユニホームは登録されたものを使用すること。背番号は、1番から99番までとする。
必ず正・副（上衣、パンツ、ストッキング）2着を用意すること。
- (2) 審判員と同一または類似色のみのユニフォームのシャツを用いることはできない。ゴールキーパーについても同様である。
- (3) 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中断し、その後の処置については大会本部で決定する。

ハンドボールの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム（1チーム選手15名以内とする。）

2 競 技 方 法

男女ともリーグ戦とする。同率の場合は得失点差で順位を決定する。

3 競 技 規 定

- (1) 平成30年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則並びに（公財）日本中体連ハンドボール部競技運営に関わる申し合わせ事項による。
- (2) ユニフォームには前番、背番をつける。
- (3) 試合球は日本ハンドボール協会検定球（2号）とする。
- (4) 試合時間は25分－10分－25分とする。
- (5) 選手15名以内、監督1名、役員3名（当該校教職員・部活動指導員・外部指導者1名以内）
- (6) 体育館シューズを使用する。
- (7) ユニフォームは、コート上でGKとCPの4色が判別できるものを用意する。
- (8) ゴールキーパーをする者は、自分のチームのキーパーと同色のナンバージャケットでも可。

4 注 意 事 項

館内では松ヤニおよび松ヤニスプレーの使用は禁止する。粘着テープは可とする。

軟 式 野 球 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数規準による。
- (2) 各地区代表チーム。1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む。）とする。また、この他の教員を2名追加することができる。ただし、外部指導者（コーチ）が入る場合は1名とし、計21名以内とする。
- (3) 監督（引率責任者）は出場校の校長・教員・部活動指導員、外部指導者（コーチ）は出場校の校長が認めた者とする。

2 競 技 方 法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。
- (2) 5回以降7点差でコールドゲームを適用する。（決勝戦は適用しない）
- (3) 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決しない場合は特別延長戦を行う。
- (4) 背番号は、監督は30番とする。コーチは29番、28番をつける。選手は1から18番とし、原則としてポジション順とする。

3 当該年度公認野球規則及び大会特別規定による。

＊投手のイニング制限は適用しない。

【大会特別規定】

【試合前】

- 1 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 2 第1試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、所定のメンバー表5部を持って、本部1名とで打ち合わせをする。
- 3 ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- 4 シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - ② 時間は7分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - ③ 後攻のチームが先に行う。
 - ④ 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員をつけて行うことができる。補助員もユニフォームを着用する。
 - ⑤ ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
 - ⑥ 相手チームがシートノックをしている時はベンチからでない。ただし、先発投手の投球練習

と終了2分前通告後の先攻チームのベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。

⑦ 守備練習であるからマウンドでの投球練習は認めない。

5 バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判の確認に応じなければならない。

【試合中】

6 試合成立は5回とし、暗黒・降雨によるコールドゲームは適用する。

7 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）でも、5回を過ぎ正式試合になって同点で試合が中止の場合でも、原則として再試合をしないで、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。但し、決勝戦は再試合とする。

8 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。

9 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い選手が球を投手板近くに置くこと。

10 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。

11 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球とする。（審判が状況を考慮する。）また、捕手、予備捕手は安全のため、ヘルメットを着用しマスクをかぶる。

12 メガホンの使用は、監督のみとする。

13 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。

14 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。

15 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。

16 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手を除く打者前位の者とする。

17 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。

18 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。

19 危険防止のために次のことを徹底する。

① バットリング、鉄棒等の球場内への持込を禁止する。

② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。

③ 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと打者と走者及びシートノック時にノッカーにボールを渡す生徒の両耳付きヘルメットを着用すること。ベースコーチとバットボーイは危険防止のためにヘルメットを着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。

20 「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

[規則適用上の解釈]

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

- 21 交代して一度退いた選手はウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
- 22 タイムに関しては公認野球規則による。ただし、捕手または内野手の1人が投手の所へ行く場合は、回数に入れない。
- 23 塁上の走者、およびコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- 24 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決着しない場合は、次のような特別延長戦を行う。

<特別延長戦>

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。なお通常の延長戦と同様に規則によって認められる選手の交代は許される。

- 25 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任を持って指導すること。
 - ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
 - ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。（特に相手投手が投球動作に入った場合については過度な声援はやめる。）
 - ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
 - ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。

【試合後】

- 26 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで全て完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
- 27 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

- 28 ベンチに入る教員は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子）または、選手と同一のユニフォームとする。また、コーチを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し背番号を付ける。ただし、女性の場合は考慮する。（サングラスは使用しない）
- 29 監督・外部指導者（コーチ）は選手と同一のユニホーム・スパイクを着用する。（サングラスは使用しない。）

- 30 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響の与えるものは使用できない。
- 31 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に考慮する。
- 32 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
- 33 後攻チームがロージンバックを先に出し、マウンドに置く。

4 使用球及び使用器具

- (1) 使用球は、（公財）日本中学校体育連盟公認球 B 号球（ナガセケンコー）とする。
- (2) その他の使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。

体 操 競 技 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム。（1チームは3～4名で編成し、その他に補欠1名を認め学校単位とする。団体の補欠と個人を兼ねることはできない。）

2 競 技 方 法

- (1) 男女とも、自由演技のみを実施する。
- (2) 団体総合は、3種目（あん馬、段違い平行棒を除く）の演技とする。個人総合は、男子（ゆか、あん馬、跳馬、鉄棒）女子（跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか）の4種目の演技とする。

3 競 技 規 定

- (1) （公財）日本体操協会制定2017年版男子採点規則、2017年制定・2018年中学校適用規則（U-15）を適用
- (2) （公財）日本体操協会制定2017年度版女子採点規則・変更規則I、女子体操競技情報最新版を適用
- (3) （公財）日本体操協会制定競技規則最新版（日本中体連体操競技部遵守事項を適用）

(4) 用 具

（男子）

- 鉄 棒（高さ：275cm）
- 跳 馬（高さ：125cm、1助走1演技）
- 床 運 動（12m平方、時間：50～70秒）
- 鞍 馬（高さ：115cm、長さ：160cm）

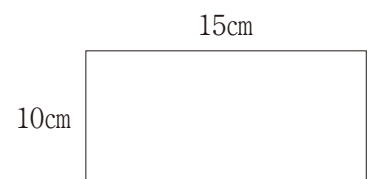
（女子）

- 平 均 台（幅：10cm、高さ：125cm、長さ：500cm）
（時間：1分30秒まで、1分20秒で予告）
- 床 運 動（12m平方、時間：1分30秒まで）音楽伴奏は単一楽器でなくてよい。
- 段違い平行棒（高さ：上棒250cm、下棒170cm）
- 跳 馬（高さ：125cm、3助走2演技）

- (5) 服 装 この競技にふさわしいユニフォームを着用すること。
ユニフォームには、学校名を示す学校マークを付けること。（推奨3cm×3cm以上）

- (6) ゼッケン 必ず右記のような大きさの背番号を付けること。

男子＝白地に黒文字
女子＝白地に赤文字



（縦15cm×横20cmでも可）

個人は100をプラスする。

1～5……四国中央、6～10……新居浜、11～15……西 条、16～20……今治・越智
21～25……東 温、31～35……松山1、36～40……松山2、41～45……松山3、
46～50……松 山4、51～55……伊 予、56～60……大洲・喜多、
71～75……八幡浜・西宇和、76～80……西 予、
81～85……宇和島・北宇和1、86～90……宇和島・北宇和2、
91～95……宇和島・北宇和3、96～99……宇和島・北宇和4

4 そ の 他

- (1) 審判の服装 男－上＝白 下＝グレー（スラックス）
女－上＝白 下＝紺（スカート）
- (2) 監督チームリーダー・外部指導者（コーチ）は、短パン厳禁とする。
- (3) フロアーには、選手・監督及び各校1名のコーチ（コーチ証表示）が入ってよい。
- (4) 採点間の練習を認める。ただし、移動前の次種目の練習は認めない。
- (5) 演技前のアップ時間
団体 1チーム2分
個人 男子：各種目1人30秒
女子：1人跳馬2本、平均台、ゆか30秒、段違い平行棒50秒以内とする。
- (6) 女子個人出場の選手には、1名の音楽係をつけてよい。
- (7) 会場により、器械の規格、高さ、マットの厚さ等完全には対応できない場合がある。
- (8) 演技内容 危険性のないように監督が責任をもつこと。

新 体 操 の 部

1 参加規定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム。(1チーム5名で3名の補欠を申し込むことができる。)

2 競 技 方 法

- (1) 男女とも自由演技を実施する。女子の手具は、団体種目は「クラブ5人」(補欠3名以内)とする。

個人種目は、「フープ」と「ボール」の1人2種目とする。

- (2) 自由演技 男子 3分～4分 女子 2分15秒～2分30秒
個人1分15秒～1分30秒

3 競技規定

- (1) 競技規則は、「日本体操協会制定新体操競技規則2017～2020年度版ジュニアルール」とし、一部中体連ルールとする。
- (2) 手具の規格は日本体操協会の規定に準ずる。
- (3) レオタードは日本体操協会採点規則を適用する。
- (4) マークは3 cm×3 cm以上の学校マークを（学校名・校章・略称・イニシャルでも可とする）前面ウエストより上につける。
- (5) 練習着も含めセパレートタイプ（露出度の高いもの）・肩ひもの細いダンス用のレオタードは禁止する。※ただし、セパレートでもお腹が見えないタイプは許可される。
- (6) 伴奏音楽は、声あり（歌詞つき）の使用について、団体・個人ともに使用してもしなくてもよい。

バレーボールの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム

2 競 技 方 法

トーナメント方式とする。

3 競 技 規 定

- (1) 2018年度（公財）日本バレーボール協会制定6人制競技規則及び競技要項に準ずる。

※ リベロプレーヤーについては、一般と同様の「リベロリプレイスメント」ルールで行う。

（取り扱いの詳細は、県中体連ホームページに掲載する。）

- (2) ベンチに入れる者は、選手12名以内と監督・コーチ・マネージャー各1名とする。監督・コーチは当該校の校長・教員・部活動指導員であり、引率者としての責任を負う。コーチは、当該校の校長が認めた者とする。マネージャーは生徒に限る。

なお、コーチが外部指導者（コーチ）の場合は、当該校の校長が認めた者で、外部指導者（コーチ）証をつけること。

- (3) 監督・コーチ・マネージャーは、必ず規定のマークを左胸部につけること。
- (4) 監督・コーチの服装は、統一されたものが望ましい。（短パン・ランニングは不可）
- (5) 試合設定時刻は、プロトコール開始時刻とする。
- (6) 予定開始時刻を過ぎた場合は、試合終了5分後にプロトコールを開始する。
- (7) ネットの高さは、男子2m30cm、女子2m15cmとする。
- (8) ボールは4号球で、人工皮革・カラーボールを使用する。
- (9) 公式練習は、毎試合ごとに行う。
- (10) 登録選手の変更については、当該チームの第1試合プロトコール開始までに各会場の本部に連絡すること。
- (11) 給水のためのタイムアウトを採用する。（取り扱いの詳細は、県中体ホームページに掲載する。）

ソフトテニスの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 団体戦 同一校の選手4名以上8名以内 監督1名で構成する。
- (3) 個人戦 同一校の選手2名と監督1名で構成する。

2 競 技 方 法

- (1) 団体戦、個人戦ともにトーナメント方式とし、試合は7ゲームマッチとする。
- (2) 団体戦において、4名（2ペア）で出場する場合は、第1・2番対戦に出場し、第3対戦を不戦敗とする。
- (3) 第1日：個人戦 第2日：団体戦、個人戦 第3日：団体戦

3 競 技 規 定

- (1) 現行の（公財）日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項による。
- (2) 使用球は公認球（白色）とする。（平成30年度は、男子アカエムボール、女子ケンコーボール）
- (3) ユニフォームは、上は襟付半袖のスポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装（用具を含めて）の色等は華美（蛍光色など）にならないようにする。上記の服装から外へ出るハイネック等のアンダーシャツやスパッツの着用は認めない。シャツの裾を外に出したり、袖をまくることはしない。また、ユニフォームは文言や記号を後から記入もしくは印刷し使用してはいけない。
- (4) 監督・選手ともテニスシューズを着用する。
- (5) ソックスの長さについては、くるぶしより上で、ハイソックスは認めない。
- (6) ハチマキ、帽子、サンバイザーには、正面に特別な文字や記号を記入もしくは印刷し、使用してはいけない。
- (7) 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中の中央につける。ただし、四隅を止めることとする。すでにプリントされている文字は隠すように止めつけるものとする。
 - (ア) ゼッケンはB5判横（白地）の大きさの布に都道府県名、学校名、姓を記述する。都道府県名の「都府県」の文字はつけないものとする。中学校は「中」と表記する。
 - (イ) ゼッケンの文字は「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。
 - (ウ) 都道府県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工夫をしてもよい。
 - (エ) ゼッケンの文字の位置は《例1》どおりとし、同一校に同姓の選手がいる場合には、《例2》のように名前の一部も付け加える。
 - (オ) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合には、学校名を分かりやすくするために、《例2》のように学校所在地を付記してもよい。

(カ) 学校名が「〇〇中学校」の場合は〇〇中と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については中をつけずに、適当な表記で表現する。

(キ) 下図のように（公財）日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

〔選手のゼッケン〕

《例１》愛媛県西条市立東予西中学校 松本

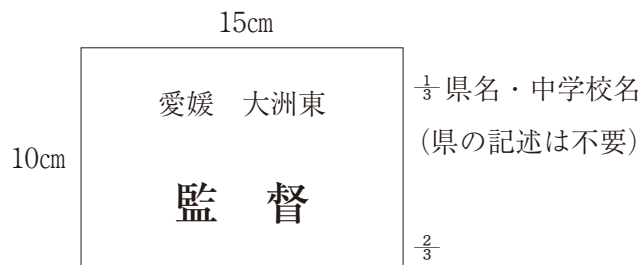
《例２》愛媛県松山市立北中学校 槇 光一郎



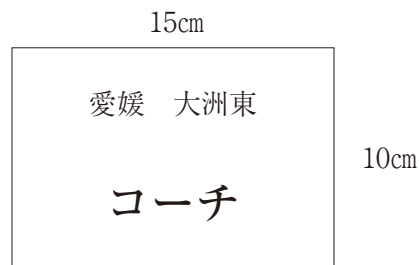
4 注 意 事 項

- (1) オーダーは試合ごとに１部を本部に提出する。
- (2) 個人戦の場合も監督・コーチ（教員・部活動指導員・外部指導者）はベンチに入ってもよい。
個人戦に２ペア以上出場する学校の場合は、出場ペア数まで監督・コーチをおくことができる。
コーチ（教員・外部指導者）は、申込書に必ず明記しておくこと。
- (3) 監督・コーチは、襟付のスポーツウェア、テニスシューズを着用のこと。また、監督・コーチは左胸にゼッケンをつけること。（文字、生地の色は特に指定しない。）外部指導者は中体連が定める外部指導者証も所持すること。
- (4) ベンチ外からのコーチは禁止する。（イエローカードの提示の対象とする。）
- (5) 外部指導者がベンチに入る場合は、監督は必ずコート周辺に待機すること。

〔監督のゼッケン〕



〔コーチのゼッケン〕



卓 球 の 部

1 参 加 規 定

(1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。

(2) 団体戦 同一校の選手6～8名、監督1名をもって編成登録する。

なお、監督の他にコーチとして、出場校の教職員（部活動指導員含む）もしくは校長の承認を得た外部指導者どちらか1名のベンチ入りを認める。

(3) 個人戦 シングルスとダブルスを兼ねることはできない。

なお、アドバイザーとして、1名のベンチ入りを認める。ただし、監督または当該校の教職員（部活動指導員含む）、校長の承認を得た外部指導者、生徒のいずれかとする。

2 競 技 方 法

(1) 各種目ともトーナメント方式で実施する。

(2) 団体戦は、3番に複をおく4単1複で3点先取法とする。シングルス、ダブルスに重複して出場できない。ただし、各チームの最初の試合は、勝敗に関係なく5番まで行う。

(3) 団体戦を1日目、個人戦を2日目に実施する。

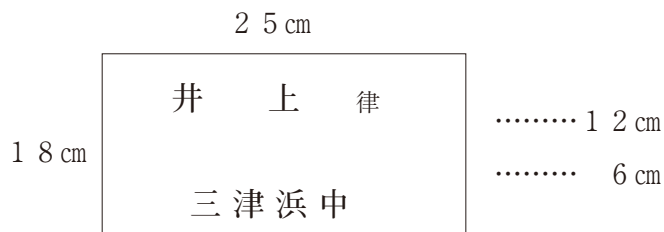
3 競 技 規 定

(1) 現行の（公財）日本卓球協会が制定したルールによる。

(2) 大会使用球は40mmの（公財）日本卓球協会公認ホワイト球（プラスチック）とする。（TSP（SL-PREMIUM40+, CP40+）、Butterfly（A40+）、Nittaku）

(3) 出場選手は、下図のように白布に選手名（姓）と学校名を記入したゼッケンを背面中央部に必ず付けること。

なお、同姓の場合は名を1字だけ加える。ゼッケンは、（公財）日本卓球協会交付のものでもよい。



バドミントンの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 団体戦 各地区男女代表チーム。（チームは監督1名、コーチ又はマネージャー1名、選手5～7名を同一校で編成する。）
チームはダブルス2組、シングルス1名とし、シングルスとダブルス、ダブルスとダブルスを兼ねることはできない。
- (3) 個人戦 シングルスとダブルス、ダブルスとダブルスを兼ねることはできない。（ダブルスは同一校で編成する）

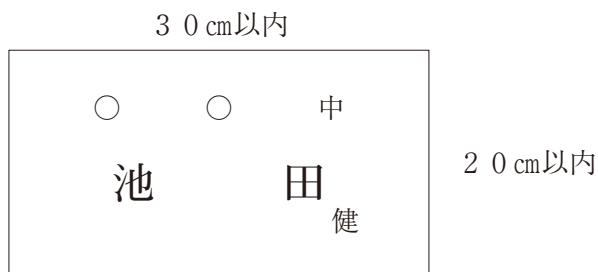
2 競 技 方 法

- (1) 各種目ともトーナメント方式を用いる。
- (2) 団体戦は第1ダブルス、シングルス、第2ダブルスの順に行う。

3 競 技 規 定

- (1) 平成30年度（公財）日本バドミントン協会競技規則並びに大会運営規程・公認審判員規程による。
- (2) コーチについては、出場校の校長が認め、コーチ証をつけた者とし、マネージャーは生徒とする。
- (3) 団体戦は2点先取法で行う。ただし、どちらかのチームが一試合目の際は全て行う。
- (4) 試合球は室温に適した（公財）日本バドミントン協会第2種検定合格水鳥球を使用する。
- (5) 服装は、上下とも（公財）日本バドミントン協会審査合格品とする。
- (6) 選手は下図のように白布に黒または濃紺（楷書）で学校名と姓を記入したゼッケンを背面中央部につけて出場する。

なお、同姓の場合は、名前の1字目を小さく入れる。



ソフトボールの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム（選手18名以内 監督1名、コーチ1名、引率責任者1名とする。）

2 競 技 方 法

男子はリーグ戦、女子はトーナメント方式とする。

3 競 技 規 定

- (1) すべての試合で80分を越えて新しいイニングには入らない。トーナメント方式の場合80分を越えて7回を終了していなくても同点の場合、あるいは80分以内で7回を終了し同点の場合は、次の1イニングのみタイブレーカールールを採用する。それでも勝敗が決しない場合は抽選とする。ただし、決勝・準決勝戦は、勝敗が決するまでタイブレーカールールを採用する。リーグ戦の場合、勝ち3点、引き分け1点、負け0点とし、得点の多いチーム順に順位をつける。得点と同じ場合は、試合が終了した（時間で終了）時点での、2試合の得失点差、失点率が低い、得点率が高い、抽選の順で順位をつける。
- (2) 選手は18名（スコアラー1名を含む）とする。なお、他にベンチ入りは引率責任者・監督（共に出場校の教員）、コーチ、合計21名以内とする。監督・コーチおよび選手は同一のユニフォームを着用すること。
- (3) 使用球は、男子、女子ともに検定3号ボール（内外ゴム）とし、本部にて準備する。
- (4) 金属製スパイク・セラミック製スパイクは禁止する。
- (5) 試合前のノックは、当日1回目の試合のみ5分間以内とする。
- (6) 試合開始30分前または前の試合の4回終了時にグラウンドに集合し、オーダー表を提出する。
- (7) 1・3塁のベースコーチは選手のみとする。
- (8) コーチにはフィールディングは認めるが、選手交代・打ち合わせ・抗議等の権限は認めない。また、ベンチから出て指示することも認めない。
- (9) その他は、2018年オフィシャル・ソフトボール・ルールによる。

4 注 意 事 項

- (1) ファールボールは両チームのベンチで拾い審判員に届ける。
- (2) 試合後、ノック後のグラウンド整備は両チームで行う。
- (3) 審判員・記録員・大会役員や相手チームに対しては中学生らしいマナーで接し、真剣なプレーを行う。

柔 道 の 部

1 参 加 規 定

(1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。

(2) 団体戦

① 男子 各地区代表チーム、監督1名・コーチ1名・選手7名以内とする。

※3名以上での出場も認める。

② 女子 各地区代表チーム、監督1名・コーチ1名・選手4名以内とする。

※2名での出場も認める。

(3) 個人戦 男女とも8階級で実施する。

① 男子 50kg級（50kg以下） 55kg級（50kg超～55kg以下）

60kg級（55kg超～60kg以下） 66kg級（60kg超～66kg以下）

73kg級（66kg超～73kg以下） 81kg級（73kg超～81kg以下）

90kg級（81kg超～90kg以下） 90kg超級（90kg超）

② 女子 40kg級（40kg以下） 44kg級（40kg超～44kg以下）

48kg級（44kg超～48kg以下） 52kg級（48kg超～52kg以下）

57kg級（52kg超～57kg以下） 63kg級（57kg超～63kg以下）

70kg級（63kg超～70kg以下） 70kg超級（70kg超）

2 競 技 方 法

(1) 団体戦

① 男女ともトーナメント方式で行う。

② 男子は1チーム5人制、女子は1チーム3人制により試合を行う。

③ チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても、同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替え及び一度退いた選手の再出場は認めない。

④ 試合時間は3分間とし、代表戦における延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。

⑤ 勝敗の判定基準は、「一本」「技有」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。

⑥ 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」	=	「反則勝ち」	>	「技有」	>	「僅差」
------	---	--------	---	------	---	------

⑦ 勝敗は、次の方法によって決定する。

ア チーム間における勝ち数による。

イ アにおいて同等の場合は、内容により決定する。

ウ イにおいて同等の場合は、1名による代表戦により決定する。

⑧ 代表戦は任意の選手とし、判定基準は団体戦と同様とするが、3分間の本戦で得点差が無い場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦による勝敗の決定方法は個人

戦と同様とする。

(2) 個人戦

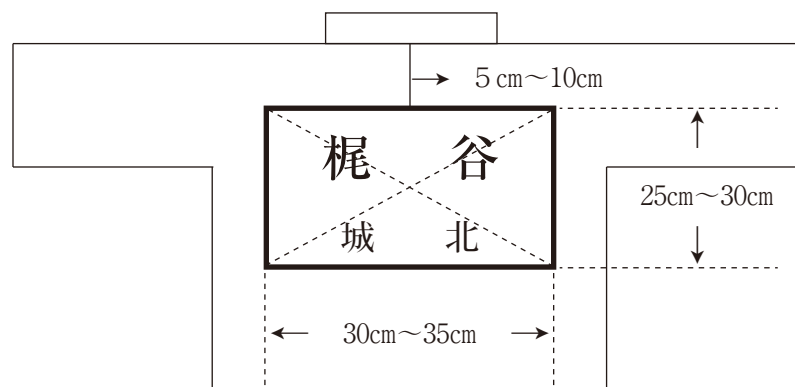
- ① 男女ともトーナメント方式で行う。但し、出場選手が4名以下の階級については、リーグ方式による。
- ② 試合時間は3分間とし、延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。
- ③ 勝敗の判定基準は、「一本」「技有」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。得点差が無い場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
- ④ 両者反則負けの場合は、次の試合には進めない。

(3) 団体戦は1日目、個人戦は2日目に実施する。

3 競技規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定（2017年～2020年）及び同国内における「少年大会特別規定」による。
- (2) 柔道衣は白色とし、女子の黒帯は白線入りも可とする。
- (3) （公財）講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。
- (4) （公財）全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下穿き・帯）を着用すること。
- (5) 柔道衣に必ずゼッケン（学校名・名字入り）を縫い付けて出場すること。
 - ① 布地は白（晒、太綾）とする。
 - ② サイズは横30～35cm、縦25～30cmとする。
 - ③ 名字（姓）は上側2／3、学校名は下側1／3とする。
 - ④ 書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。
 - ⑤ 文字色は、男子は黒色、女子は濃い赤色とする。
 - ⑥ 縫い付け場所は、襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

＜ 例 ＞



- (6) 女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。※Tシャツのマーキングについては、（公財）全日本柔道連盟が定める規程（平成25年4月1日より施行）に準ずる。

- (7) 柔道衣コントロールの際は、試合時に着けるサポーター等を着用して受けること。
- (8) 胸マーキング等について、道場名等は不可とする。

4 監督・コーチ

- (1) 監督【校長・教員（非常勤講師は除く）又は部活動指導員】の他に、コーチ【教職員又は外部指導者（コーチ）】1名をおくことができる。コーチは1校1名とし、他校と兼ねることはできない。
- (2) 団体戦・個人戦とも、監督・コーチの2名が試合場内に入場できる。
- (3) 監督・コーチは、審判員に準じた服装をすること。
- (4) 監督・コーチの言動により試合の進行に支障があると認めた場合は、運営責任者の判断で当該監督・コーチに退場を命ずることができる。命令に従わない場合は、当該校・当該選手を失格とする。
- (5) 外部指導者（コーチ）は、県中体連の「外部指導者（コーチ）に関する規定」の資格・申請方法等の要件をすべて満たした者とする。

5 計 量

- (1) 7月24日（火） 団体・個人計量 14：00～16：00
- (2) 7月25日（水） 団体・個人計量 8：20～ 9：00
個人計量 団体戦表彰式終了後、30分間
- (3) 7月26日（木） 個人計量 8：20～ 9：00

※ 団体計量は1回のみとする。上記の時間を過ぎての計量は実施しない。時間内に合格しない場合は失格とする。

6 そ の 他

- (1) 皮膚真菌症（トングランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手の皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができないこともある。
- (2) 脳震盪対応について、選手及び指導者は下記事項を遵守する。
 - ① 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする（なお至急専門医の精査を受けること）。
 - ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④ 当該選手の指導者は、大会事務局及び（公財）全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。

剣 道 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 団体戦 各地区男女代表チーム（正員5名・補員2名以内とする。）
- (3) 個人戦 各地区男女代表者

2 競 技 方 法

- (1) 団体戦、個人戦ともにトーナメント法による。1日目個人戦、2日目団体戦を行う。
- (2) 個人戦組合せは、中体連剣道競技規定（地区順位に照らし合わせ）により、本部で決定する。

3 競 技 規 定

- (1) 試合は全日本剣道連盟剣道試合・審判規定並びに細則、および日本中体連剣道競技部申し合わせ事項によって行う。試合時間は団体戦、個人戦ともに3分間3本勝負とする。時間内に勝敗の決しない場合、団体戦は引き分け、個人戦は勝敗の決するまで時間を区切らず延長戦を行う。
- (2) 団体戦の勝敗は、勝者数、総本数の順で決定する。決勝戦においては、勝敗が決しないときは、2分間の延長戦を1回行う。延長戦で勝敗が決しないときは、引き分けとする。ただし、団体戦の勝敗が決した後、延長戦は行わない。全て同数の場合、任意の代表者による代表者戦を勝敗の決するまで行う。（3分間1本勝負、時間内に勝敗の決しない場合、勝敗の決するまで時間を区切らず延長戦を行う。）
- (3) 登録選手は申し込み後、変更を認めない。
- (4) 登録選手として申し込みのない者は、正員の位置に入れることはできない。
- (5) 団体戦では、一度補員と交代した者は再び選手として出場することはできない。
- (6) 選手席に入れる者は登録選手、監督のみとする。監督は監督証を着用する。（外部指導者（コーチ）、地元剣道関係者は選手席には入ることはできない。）
- (7) 校名・校章等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。
また、剣道着袖口に学校名以外の名前の刺繍が入っている剣道着の着用は認めない。（関係のないワッペン等も認めない。）
- (8) 垂に、学校名『～中』（横）、姓（縦）が記入してある黒または紺色の布地の名札を着用する。
- (9) 面乳革は、大きさ、模様も含めて華美にならないように配慮し、色は黒または紺色とする。
面紐の長さは、結び目より40cm以内とする。
- (10) 面金は通常の配色のものとする。（通常の配色とは面金前部が銀色、面ぶち革の色が外側黒、内側朱のもの。）アイガード・ポリカーボネット面は認める。
- (11) 竹刀は男女とも114cm以下とし、竹刀の先部の直径は男子25mm以上、女子24mm以上でなければならない。また、先革の長さは50mm以上とする。重さは男子440g以上、女子400g以上とする。
化学繊維竹刀の使用は認める。
竹刀の弦の色は白・黄・紫のみとする。

- (12) 柄革は、滑り止めや模様等のない無地のもので、白色とする。
- (13) 鐐の大きさは直径9 cm以下とし、色は革色のもの（白色可）を使用する。（絵付きのものは着装の状況による。）
- (14) サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用については、医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。使用する場合は試合開始までに各試合場審判主任に届け出た上で使用する。サポーターなどは、肘、膝などにつける物をかかるとにつけたり、ゴムや革及び滑り止めを底に貼った物等の使用は禁止する。（相手に危害を与える、公正さを欠く、という観点から。） 指先単独でのテーピングは届け出は不要。届け出と違う物を使用した場合は替えさせる。
- (15) 上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。

4 注 意 事 項

- (1) 各校・各自、紅白の目印を持参する。
- (2) 各校、オーダー表を持参、当日の朝受付に提出のこと。（4 人の場合は次鋒抜き、3 人の場合は次鋒・副将抜き）

【オーダー表】サイズ

	13cm	13cm	13cm	13cm	13cm	13cm
21 cm	学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将

- (3) 竹刀検量を行う。他の大会で貼ってある合格シール等は必ず事前にはがしておくこと。また、不備な竹刀が多いので、監督は必ず事前に点検しておくこと。

	1 日 目	2 日 目
場 所	主道場西側入り口付近	
時 間	開会式開始20分前まで （個人戦出場者優先） 閉会式後から17時まで	開会式開始30分前まで

- (4) 監督は監督証を着用する。

5 そ の 他

- (1) 審判・監督会議を、1 日目 1 0 時 4 0 分、2 日目 9 時 3 0 分より大会議室で行う。
- (2) 練習について

	主 道 場	剣 道 場
1 日 目	準備でき次第 開会式開始20分前まで	終日開放
2 日 目	開会式開始20分前まで	12時まで

相 撲 の 部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム（1チーム正員3名、補員2名とする。）
- (3) 個人戦 各地区代表選手

2 競 技 方 法

(1) 団体戦

- ※ 出場チームが11チーム以上の場合、予選リーグを行い、優秀8チーム選出後トーナメント戦を行う。
- ※ 出場チームが8～10チームの場合、A・Bの2つの予選リーグを行い、その後各リーグの上位2チーム（計4チーム）による決勝リーグ戦を行う。
- ※ 出場チームが8チーム以下の場合、全出場チームによるリーグ戦を行い、順位を決定する。

(2) 個人戦 予選3回戦を行い、優秀16選手を選出後トーナメント戦を行う。

(3) 予選における順位

- 団体戦 勝数・得点の順で定める。それでも勝負が決まらない場合は、当該チームによる決定戦を行う。
- 個人戦 予選リーグを行い、各リーグ上位2名による2次リーグを実施する。2次リーグの上位2名で、決勝トーナメントを行う。定まらないときは、日本相撲連盟の競技会規程により決定する。

3 競 技 規 定

- (1) 日本相撲連盟 競技会規程・審判規程・審判規程補足による。
- (2) 時 間 3分間を限度とする。
- (3) 禁じ技
 - 合掌（相手の背後に手をまわして組む）
 - 鴨の入れ首
 - 極め出し：極め倒し
 - 首を脇の下に入れる
 - さば折り
 - 河津掛け
 - 反り技



鴨の入れ首



頭を相手の胸より下にいれる



頭を相手の脇の下にいれる



さば折り



河津掛け



居反り

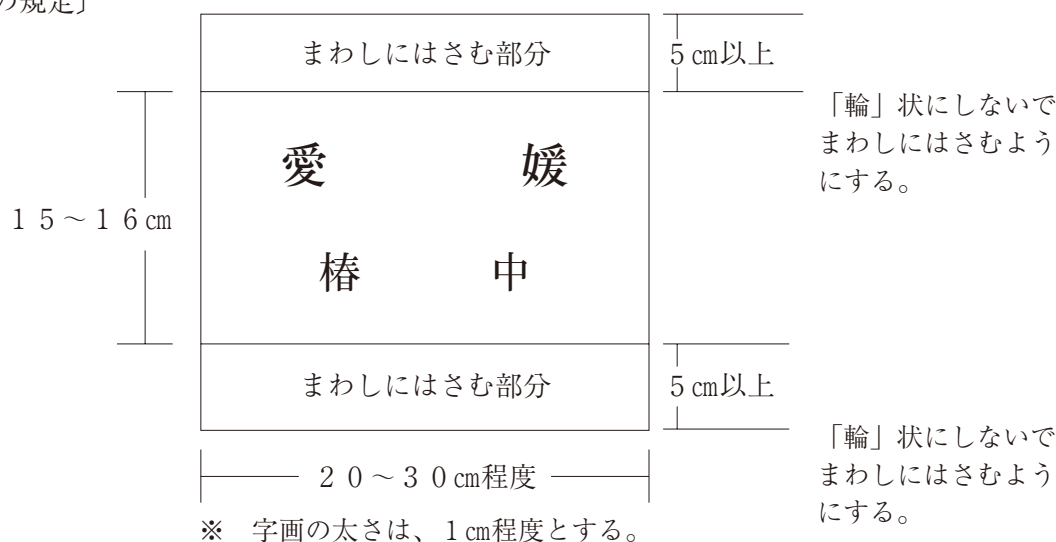
以上の技を禁手（技）に加え、反則した場合は取直しとし、再度した場合は反則負けとする。

- (4) 交代 補員が出場する場合は本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。ただし、一度退いた選手は再び出場することはできない。
- (5) 立合 ① 主審の掛声により立つ。
待ったはなし。もし故意に待ったをした場合は、審判団協議の上、負けとすることがある。
② 双方とも両手を付いて立合う。
- (6) 異議申し立て ① 競技の判定に対する異議の申し立ては担当の審判に限る。
② 一度勝名乗（かちなのり）を上げて決定した後は一切異議の申し立ては認めない。
- (7) 競技方法 ① 選手は、呼出しに応じ土俵に上り徳俵の内側において立札を行い、土俵中央に進み蹲踞して主審の合図により仕切に入る。
② 勝名乗は、蹲踞で受ける。
- (8) 服装 ① まわし及びアンダーパンツ以外を身に付けてはならない。
② 負傷者は、包帯、サポーター、足袋等を身に付けることができる。ただし、支柱入りのサポーター、その他相手に危害を及ぼすおそれのあると認められるものについては、この限りではない。
※ アンダーパンツは、学校の体操服（短パン）の着用を認める。
※ アンダーパンツをつかんではいけない。勝敗に影響する行為があった場合は、審判団の協議とする。

4 注 意 事 頂

- (1) 声援は認めるが、サイドコーチと認められるものは禁止する。
- (2) 校名をまわしの前に必ずつける。
- (3) 手足の爪を端正にする。
- (4) タオルを準備しておくこと。
- (5) 監督は「監督証」、コーチは「コーチ証」を必ず所持すること。（厳守）

〔ゼッケンの規定〕



ラグビーフットボールの部

1 参 加 規 定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム。監督、選手22名、マネージャー 1 名以内とする。

2 競 技 方 法

リーグ戦

3 競 技 規 定

- (1) 試合時間は15分ハーフとする。
- (2) ヘッドキャップ、マウスガードを必ず着用する。
- (3) その他の競技規則については、日本ラグビーフットボール協会「U-15ジュニアラグビーの競技規則」に従う。
- (4) 順位の決定は、以下の順番に優先する。
 - ① 勝率 ② 得失点差 ③ 総トライ数 ④ ゴール数

4 注 意 事 項

- (1) 選手のユニフォームの上衣はパンツの中へ入れ、ソックスを上げておく。
- (2) 試合に出場する選手の健康状態に常に留意する。つめ、スパイクシューズのポイントの確認をする。

テニスの部

1 参加規定

- (1) 第70回愛媛県中学校総合体育大会競技別・地区別出場数基準による。
- (2) 団体戦 各地区男女代表チーム。(チームは、同一校の選手7名以上10名以内で編成する。) シングルス3人・ダブルス2ペアの5ポイントでおこなうが、選手がシングルスとダブルスに重複して出場することはできない。
- (3) 個人戦 シングルス……各郡市 16人以内
ダブルス……各郡市 8ペア以内
(ダブルスのペアは、同一校の選手2名で編成する。)

2 競技方法

- (1) 団体戦・個人戦は、次のとおり実施する。
 - ① 団体戦：出場チームが4チーム以内の場合はリーグ戦。
5チーム以上の場合はトーナメント戦。(3位決定戦あり)
 - ② 個人戦：シングルス：予選リーグ→各リーグの1位による決勝トーナメント。
ダブルス：トーナメント戦
- (2) 試合は、1セットマッチタイブレークを原則とする。※個人戦(シングルス・ダブルス)は、ノアドバンテージ方式とする。
- (3) 団体戦と個人戦(ダブルス)を1日目、個人戦(シングルス)を2日目に実施する。
- (4) 団体戦は、ダブルス2、ダブルス1、シングルス3、シングルス2、シングルス1の順におこなうが、オーダーは実力順でなくてもよい。

3 競技規定

- (1) (公財)日本テニス協会「テニスルールブック」による。
- (2) 審判は、ソロチェアアンパイアを原則とし、リーグ戦は相互審判、トーナメントは敗者審判とする。
- (3) 使用球は、ダンロップスリクソンとする。
- (4) 服装は、上下ともテニスウェアとする。(ゼッケンなどは必要ない。)

4 注意事項

- (1) 受付終了後、試合のできる準備をして待機しておくこと。
- (2) 指示があるまでコートには絶対入らないこと。
- (3) 受付後、10分間の練習時間を設け、試合前の練習はサービス4本のみとする。
- (4) 団体戦では、試合毎に、オーダー用紙を2部、本部に提出する。
- (5) 団体戦は、原則としてポイント決定後も全ての試合を実施する。
- (6) 団体戦のみ、各コートベンチに、監督・コーチ・外部指導者(コーチ)・登録選手のうち、1名がつくことができる。ただし、監督・コーチ・外部指導者(コーチ)からは1名のみとする。
- (7) 団体戦・個人戦とも、シングルスのみ、各校1名、ボールパーソンをつけることができる。